

レコード軽術

2016
4.1
No.56

Artist
of the
Month

シヨン・マクドナルド花札

混迷する世界の
核心に肉薄する
燃え盛る情熱の塊と
煽動の意欲



古田秀和「之も楽しむ者に如かず」

米・次期宣伝相（予定）が絶賛！

ワーグナー 楽劇「ニーベルングの指輪」

指輪の魔力は核兵器か 取り巻く神々の壮絶な最期

Der Ring des Nibelungen



永田町祝祭管弦楽団

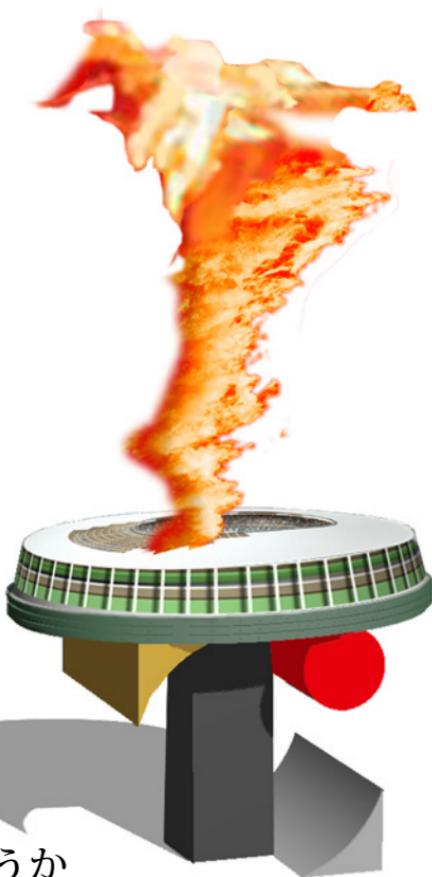
ストラヴィンスキー
バレエ音楽

「火の鳥」

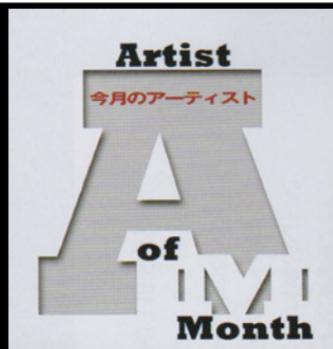
佐野研似バレエ団は東京五輪のアトラクションにエントリーします

いまバレエ公演のディスクを購入されると、特製トーチが付きます。

どんな目に遭っても不死鳥
のように甦る「火の鳥」の生
命力をモチーフにしました。



どこに置きましょうか



ショーン・マクドナルド花札

今世界の耳目を集めている指揮者は誰かと問われたらこの人をあげる人は多いだろう。過激な発言もさることながら、経歴詐称が続々と発覚している。それでも彼はひるまず世界のオーケストラを股にかけ大活躍、人気の拡大は衰えを見せない。単独インタビュービューに応じてくれた。



——経歴詐称疑惑のことですが

シヨーン（以下S） はつきり言うくと、パリ音楽院も、ジュリアードも卒業したわけじゃない。しかし、そこで勉強をしたことは本当で前からホームページに書いてる通り。いつの間にか針小棒大に書き立てて話題にしたのは君たちマスコミではないのか。騒いでいる連中は皆経歴が欲しいんだよ。実力さえあれば経歴に頼る必要はない。キミ、何か欲しい経歴があるかね？詐称してもそれに合った仕事できる？結果がすべてだよ、この世界は。成功しなかったヤツは黙った方がいい。

——特定の作曲家を下らないとけなしながら、公演では信じられないほどの熱狂を集める。その真意は何なのでしょう？

S ああ、いつかいったブルックナーのこどだね。君はどうだね、彼の全交響曲を聞き分けられるかね。聴衆のほとんどはどれも似たり寄ったりだと思っているんだから、そのレベルで最善を尽くせばいいのさ。いか、金管がフォルテで鳴るときは弦はいつもきざみ。これをうまくやれば公演の半分は成功さ。

——それでも、オルガニストであった彼ならでの荘厳でナイーブな信仰心に満ちた作品とほめたこともありますね。

S キミ、東洋には「君子豹変する」という教えがあるのを知っているだろう？私はどうな作品にも初めて出会うような気持ちで向かい合っているのだ。毎回同じではないよ。聴衆も違う。アメリカ南西部はヒス

パニック系が多いから、ブルックナーはやらないな。音楽を禁じているイスラム教原理主義の信者もお断りだ。出て行けというかも知れないぞ。

—— シューベルトについても、「もっと長生きをしたところでもいい作品が残せたか？結果は同じ」といわれました。

S キミは日本人だろ？育ったのも日本か？

—— えっ、シューベルトと何か関連が？

S シューベルトの、特に最後の方の作品の美しさは「はかなさ」なんだ。慕って止まないベートーヴェンのようになりたいと音楽の勉強をしていた。しかし、ベートーヴェンが没した翌年に31歳で生涯を閉じた。「冬の旅」を作曲していた頃には先は長くな

いのではないかと思っていたのではないかね。いつか春がやってくると希望は持ちながらも。

これ、まさに華と散った天才の輝きさ。ぱっと咲いてあっけなく散る。桜の花もそうだ。サムライの心もそうなのかな。日本に行ったらシューベルトを指揮したい、楽しみにしているよ。

シヨンさんの言葉遣いは荒っぽい、含蓄のある内容。これまでの報道から粗野で威圧的な印象が先行するが、実際に会ってみると知的な面もあることを発見。好悪は別れるだろうが少なくとも話題になるだけの人であることは確か。出会っただけでも収穫だった。



古田秀和

Hidetaku FURUTA

之も楽しむ者に如かず

●バツハ「フリーガの技法」

この季節、日の出が毎日早くなっている。毎朝目覚める時刻は同じでも朝日は日増しに明るくなってきている。「春眠暁を覚えず」と孟浩然が詩を詠んだ頃は時刻はどのようにして計っていたのだろうか。

昼間とは日の出から日没まで、正午とは太陽が真南に来たときとするのは昔も今も変わらないが、江戸時代では昼間の時間を等分に分けて日が昇ったら時刻は午前六時（卯の刻）、日が沈んだら時刻は午後六時（酉の刻）とする定め方（不定時法）をしていた。孟浩然が育った中国の中部や日本の緯度ならば冬至や夏至であっても日の出・日の入り時刻は秋分・春分の時と比べて一時間程度しかずれないから、健康

や作業能率に与える影響は大きくはなかったろうが、高緯度の地域では無理だったろう。

こんな時刻の定め方は時計がなかった時代にはライフスタイルに即しているのかも知れないが、工業が発展し作業が時間で管理されるようになると今日我々が用いている一日を24等分する定時法が採用されるようになったのは当然の成り行きだろう。

それに、毎日変わる昼夜の長さを等分して表示する時計は複雑になるに決まっている。今の技術なら暦のデータを時刻表示をするマイコンのプログラムに書き込んで何かの処理をすればできるだろうが、おいそれと出来るものではない。

しかし、江戸時代末期、ゼンマイと歯車などの手作りの機械部品で不定時法の時計を作り上げた人がいる。その人は田中久重、作った万年時計は彼の死後壊れ、仕組が解明されたのは21世紀になってからである。

かような技術が鎖国下の日本にもあつたのだと誇るために万年時計を持ち出したのでない。工業製品として万年時計をみれば、世界の潮流に乗り遅れた複雑・高価な代物に過ぎない。強調したいのは乏しい情報しか得られない環境で、世界に一つ、誰も到達し得ないほどの創造物を作り上げたことである。

現代はインターネットを始めとするメディアの進歩によって情報は瞬く間に世界を駆け巡る。競争も激しい。情報を誰よりも先んじて多く集めることが結果を大きく左右する。しかし、その成果は——芸術家なら作品、科学者なら論文ということになるだろうが——真に独創的といえるだろうか。時代遅れでないというだけで後世に残る価値を持つか。

時代遅れと言えばバッハの晩年である。時はバロツ

クから古典派への端境期。バッハの息子たちも父親のスタイルを継がなかった。中でもクリスティアン・バッハはモーツァルトに多大な影響を与えている。

そのような凡人ならば隠遁を強いられるような環境で衰える視力と戦いながら作曲したのが「フーガの技法」であり、絶筆となった。対位法が描く精緻で壮大な空間は時代の流れなどとは決別し、ひたすら人知の限界へと登りつめていきたいという意志が感じられる。クラシック音楽の最高傑作の一つである。

「フーガの技法」には楽器指定がない。いくつもの声部が絡み合つてできているので使用する楽器の特性を生かしたいろいろな表現ができる。

もし、万年時計の田中久重がこの曲のためにオルゴールを作つたらどんなになるだろうか。希有の創造物の出会い——二人の人生を重ね合わせてふと想つた。

本稿は故・古田秀和氏と親しかつた某氏から遺稿としていただきました。感謝に堪えません。(編集部)

新譜
月評

2 0 1 6

4.1

管弦楽曲 恣意和夫
白岡弘和
藤田由々
声楽曲 北海又帰

4月号新譜月評

■ビゼー：小組曲「こどもの遊び」作品22

安倍三振指揮

■スメタナ：「わが祖国」

岡墮克也指揮

■岡野貞一：「ふるさと」

明日の日本を歌う会

(編集部から)

近年、ジャンルを問わず評論活動一般に抑制的傾向が出てきたと言われている。いわゆる同調圧力で権力に逆らうことは書けない、それゆえ当たり障りのないことを書き並べて取り繕うという風潮



■ビゼー：小組曲「こどもの遊び」作品 22

安倍三振指揮 永田町管弦楽団

があることです。音楽評論でも然りて表現意欲が萎縮しては言論の自由の放棄にまでつながりかねません。今回は直截な意見を述べることで定評のある評論家を二人に相対する立場で執筆してもらったことにしました。

恣意和夫 ● Shi Kazuo

永田町管弦楽団としては珍しいフランスものの登場である。にわかには盛り上がりすぎてきた保育所問題で政府がやる気があるところを見せるための宣伝である。

少子高齢化の問題は何十年も前からわかってはいたが、政党はそれを取り上げても票にならないので向き合わなかった。そもそも子育て世代の投票率が高齢者の約半分というのが異常なのだ。「政治はオジサンたちのもの」とそっぽを向かれたツケが国を支える次世代の消滅の危機にまで発展したのだ。

安倍の指揮する演奏は準備不足でその場しのぎ。政策の混迷を象徴こそすれ、問題の解決には何の役にも立たない。

白岡弘和 ● Shi rooka Hirokazu

この選曲はネット上の匿名ブログでの汚らしい言葉が話題になったのがきっかけという。保育園の充実が求められるのはもつともであるが、基本的に「保育園落ちた」親の身の回りの問題であり、即国政に結びつく問題ではない。育児環境の問題は政権側も以前から取り上げていて、成果も出ている。民主的手順を経て選ばれた政党のやることを有権者として見守っていくのが本来の道だ。ブログの著者の真の意図はどこにあるか身辺調査が必要ではあるまいか。前置きが長くなったが、急ごしらえにしては演奏は素晴らしい。状況に対して的確に対応する能力は不満分子をもうならせる。

分裂騒動で団員が減少した永田町フィルにかつての団員が戻ってきた。新体制になって初めての演奏会録音である。取り組む曲も大編成の「わが祖国」、これから我が国の楽界を支える一角になりたいという意欲あふれる選曲だ。



■スメタナ：「わが祖国」

岡墮克也指揮 新永田町
フィル

演奏もそれにふさわしいかという甚だ疑問。新規まき直しの意欲は感じなくもないが、一体感がない。長らく共にアンサンブルをしてこなかった仲間たちの久しぶりの手合わせということ割り引いても破綻が多い。対立と抗争に明け暮

れた数年前のことは水に流せるものではないのか。音楽演奏と個人的な好悪とは切り離せないのだろう。前執行部が人々の期待を裏切り、オーケストラ活動一般のイメージさえ失墜させた負の遺産は計り知れないほど大きい。

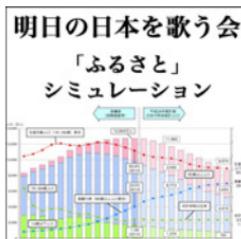
今回の再編成に際してはまず過去の反省と再生への道筋が示されることを求めたいが、期待薄だ。それはメンバーからもわかる。CDには団員名簿は掲載されていないが、演奏会の放送録画を見ると見慣れたメンバーばかり。数年前の録画ではないかと確かめたほどだ。

メンバーをさらに見ていくとわかるのは出戻り組が冷遇されていることだ。それはある程度仕方ないが、それぞれの支

持母体で明確な区別があるのが問題。大きく分ければ大企業の労組関係者と市民運動出身者に分類されるが、それだけではない。原発問題に安全保障問題、財政問題と対立の元になることはたくさんある。まとまらないアンサンブルがさらに悪くなり、かつての分裂の再来がいつ起こっても不思議でない状況だ。

ただし、奏者の自発性を押さえ込み、楽界に君臨する永田町管弦楽団のようなアンサンブルを求めるべきだというのはない。しかもその団結が金と権力によってなされるのだったら醜悪そのものだ。永田町管弦楽団の団員より優れた団員も多いだろうに、再三の分裂があったら我が国楽界の恥である。

このディスクに収められている音源はまずネット上にアップされ話題になったものである。それをあるNPOが取り上げCD化し、一般に出回るようになった。演奏は水準に達しているものの可もなし不可もなしで、それだけで話題になるも



■岡野貞一:「ふるさと」

明日の日本を歌う会

のではないが、企画のアピールする内容が強烈で政界にも知られるようになった。曲は「ふるさと」のみ。訴えているのは震災の時のようなふるさとへ帰りたい想いではない。日本がこれからどう変わっていくかのシミュレーションになってい

るのだ。

まず最初の「ふるさと」はソプラノ、アルト、テナー、バスそれぞれ10人からなる編成で歌われる。これが基準になる。基準の根拠は60年代の人口分布である。高度成長にさしかかった当時、日本の人口は九千万人余、高齢者の割合は数%に過ぎなかった。15から64歳までの生産年齢人口すなわち合唱団のメンバーにふさわしい人の割合は8割を越えていた。

4回目の「ふるさと」あたりから様子が違ってくる。人数はさほど変わらないが、若者が減り高齢者が増えたのでソプラノパートの人数が $2/3$ になる。今世紀始めの状況だ。オリンピックが行われる20年に相当する6回目となると、人数は35人

に減り、ソプラノはわずか5人、声量だけでバランスをとるのは不可能になってくる。

さらにその先はどうなるか、こわごわ最後の二〇六〇年相当の演奏を聴いてみよう。総人口は一九六〇年代と大差ないが高齢化率が40%に達し、コーラスの人数はほぼ半分の20人。ソプラノパートは無く、アルトも不足気味になり、もはや混声四部での演奏は不可能となる。

中国や北朝鮮の脅威を取り上げて国の存立事態がやってくると煽る人たちにこれを聴かせたい。攻め込まれる前に国がなくなったら元も子もない。子育て支援を越えて移民のことも考えないと後手後手に回るのではないか。

ロッシーニの歌劇「シンデレラ」



新演出の公演ライブがBDで登場

初回限定・変身願望実現券が当たる

あなたの変身願望をお手伝い



抽選で3名の方に期間限定の正夢イベントを催します。
学歴、職歴、著作などを審査の上、社の方針に沿って針小棒大
に演出、生まれ変わったかのようなひとときを過ごせます。

期間1年に付き前金500万円。期間が終わったあとも手記
などで印税収入を得ることもできます。

芸能関係者、政治家など、実績多数
人材派遣の **リプリー商会**

お知らせ

オーケストラの演奏会で開演時まず行うのはチューニングです。オーボエ奏者の出す「ラ」の音に合わせてコンサートマスターが調弦して引き継ぎ、弦楽器、管楽器とピッチを合わせていきます。

最近妙なわさを耳にします。「あのチューニングは験担ぎにやっているだけ」「オーボエ奏者は金をもらっている」「ラの音の周波数は毎回微妙に違うのでそれで掛け金が決まる」などなどです。

各楽団に問い合わせたところ、巨人軍に近いといわれる読売日本交響楽団を含むすべてのプロオーケストラにおいてプロ野球の円陣声かけで行われているようなことは一切ないとの回答を得ました。誤解を招きお騒がせしたことをお詫びします。



日本プロオーケストラ連盟

緊急記者会見

ドン・ジョバンニの末路

主演の宮崎氏が降板しおわび



全国にオペラファンをとにかくかけ声で永田町管弦楽団の主導で有名オペラの全国ツアーが始まった。いわば地方創生政策の音楽版である。今回注目の歌手はドン・ジョバンニ役の宮崎謙介氏。美声に加えイケメン・長身と三拍子揃った将来が期待できるバリトン歌手だった。

「だった」と過去形に書くのはわけがある。公演初日にして彼の浮気情報が週刊誌に書き立てられてしまい、今後の音楽活動の休止を余儀なくされたからだ。

単なる浮気にとどまらないダメージとなったのは、彼の妻が妊娠中で公演が一段落したあと育児休暇を取ると公言していたのに、その直後の公演先の夜の街で女性と一夜を過ごし、しかもその相手が同じオペラ歌手、よりによってドン・ジョバンニにもっとも復讐心を持っているドンナ・アンナ役のソプラノ歌手だったからだ。そのソプラノ歌手はオペラのストーリー同様

婚約者がいる身。なお、宮崎氏の前妻もオペラ歌手。彼はよほどオペラ歌手が好き、いや、手当たり次第というべきか。

当初オペラ歌手に育休が必要なのかという疑問もあったが、家を空けることが多くなる地方での公演に際してはやむを得ない、自ら率先して育休を宣言することは育休制度の認知に役立つなどの意見に押し切られ、認められた。しかし、公演先から妻の体調を気遣うどころか歌手仲間の女性と一夜を共にするという倫理観のなさは演じる役がドン・ジョバンニでも許されるものではない。ネット上に「裏切られた」との女性の書き込みが増える中、夫妻の謝罪会見が行われた。

会見の一問一答をここに記す余裕はないが、定型的な釈明のあと、記者からこれまでの浮気相手は何人いるかと聞かれ、しどろもどろになった。有能な秘書がいれば地域別にあそこは何人、

ここは何人と示してくれただろうに。ステージで従者レポレツロが歌う「カタログの歌」を思い出した。

今後のことを聞かれたのに対し、彼は見る間に泣き顔に。

「せっかくタイトル・ロールになったのに……」
と言いだしてあとは意味不明。オペラ歌手になるは大変だったとか、これからも大変なのだとか、こんなことでこれまでの苦労が水の泡になるのは残念とかの愚痴の連発で終わった。号泣が始まってから10分あまりか、感心するとか驚いたのは、泣きわめく夫の隣で表情ひとつ変えずに座っている夫人の姿。

すでに離婚を決めているのか、夫の将来をあきらめてはいるものの支えていくことを覚悟しているのか、内心は読み取れないが、人間としての強さは夫よりずっと上ではないかと妙に感動してしまった。



音楽ディスクはじめ、演奏者、楽器、楽譜の配送は

ヤマグチ ミュージック サプライ

全国に拠点を分割



どこでも基本送料 **893 円**

🚚 将来に向け、無人運転トラックによる配送を実験中。
一般の方には迷惑をおかけしません



ディスクを電力に変えてゴミなし社会へ

このたび**オントモ燃処理**株式会社は自治体と提携、ポリカーボネート樹脂製のディスク（CD, DVD, BD）を燃焼して電気を得る発電所を建設しました。契約すると各家庭で使えます。

ディスクは資源ゴミとして所定の袋に入れて出します。録音されていた音楽をまだ聞きたいという方は別途提供されるタグを貼り付けて下さい。その音楽のダウンロードコードがメールで送られます。



棚すっきり・街もきれい

新電力事業に進出記念キャンペーン

期間中ディスクにこの券を添えればもらえる電力が2倍

オントモグループ **オントモ燃処理**株式会社

有効期限 2016.4.1

レコード軽術常備店



クラシック音楽を聴きながら

語らいと酒悦のひとつき

〒 167-0054 杉並区松庵 3-38-3

ニューダイヤハイム B 1 南号

☎ 03-3334-4161 (日曜休み)

パロディー模型・置物 製作実績豊富

つねに最先端を行く家内工業



あなたのアイデアを 3D プリンターで実現します

編集後記

21世紀になったとき、明るい未来が開けると誰もが楽観していたわけではありませんが、9.11のテロから15年、世界は宗教対立の昔に戻ってしまったかのよう。

皆が頭を冷やして事態を眺め直せばよりよい方向へ進む道も見つかるかも知れません。パロディも役立つこともあるかと思うこのごろです。

バックナンバーのハイライト、真面目なエッセイなどを
http://members2.jcom.home.ne.jp/s_yanagawa/
で見ることができます。

レコード軽術 '16年春号（通巻第56号）

2016.4.1 第1刷発行

編集発行人 柳川誠介

〒195-0054 町田市三輪町539-119

TEL&FAX (044) 989-8510

s_yanagawa@jcom.home.ne.jp

印刷・製本 家内工業

